「（仮称）滋賀の県立高等学校魅力化プラン」の検討に係る地域別協議会
東近江地域　結果概要

１　会議の日時等

開催日時　令和４年 10 月 26 日（水）14：00～15：35
（滋賀県立男女共同参画センター研修室Ｂ・Ｃ）

出 席 者

市町	氏名
近江八幡市	土井忠史　　北村久一
東近江市	中江滋希　　西田栄宏　　森　鉄兵
日野町	音羽寛之　　岩脇俊博　　大蔵勇二　　森島美徳
竜王町	谷　大太　　小磯真由美　西村　実

（敬称略）

◇滋賀の県立高等学校の魅力化について

２　出席者からの主な意見

①	県内には魅力的な高校はたくさんあるが、公共交通機関が十分ではない地域に住む生徒や保護者にとって、自転車で通える高校を第一に考える。それを打ち破るような魅力的なプランを作成してほしい。
②	以前は、ものづくりや商業を学びたい生徒たちが工業高校や商業高校に進学していたが、今は、ほとんどの中学生が「近さ」と「学力」で高校選択している。これまでにない新しい学科の考え方も必要ではないか。
③	ＪＲ沿線や県南部の高校を選ぶ生徒が多い。また、第一希望の県立高校に挑戦して、不合格なら私立高校に進学する生徒も増えてきた。私立高校に魅力を感じている生徒は多く、県立高校もさらに魅力を出していく必要がある。
④	全県一区制度の影響もあり、ＪＲ沿線や県南部の高校は人気がある。以前は、第一希望は県立高校で私立高校は滑り止めにしている生徒が多かったが、近年は私立高校を第一希望に考える生徒が増えてきた。私立高校はＰＲが上手ということもある。
⑤	中学生は、特色ある教育活動や進路実現が可能な教育課程、学校行事、部活動等を重視して進学先を決めている。近年は、自分で時間割を編成できる総合学科の人気が高い傾向がある。選択の幅が広いことに魅力を感じている中学生は多い。
⑥	近年は、総合学科では選択の幅が大きいことに魅力を感じている生徒は多い。大学等への進学を見据えて普通科を希望する生徒が多い中、八幡高校の看護類型のように、少し専門的なことを学べる普通科に魅力を感じる生徒はいる。
⑦	部活動で高校を選んでいる生徒は多い。働き方改革の課題はあるが、部活動に力を入れている高校は魅力につながっている。
⑧	施設・設備が充実している私立高校に魅力を感じる生徒は多い。また、送迎バスを走らせていることから、保護者としては安全面で魅力に感じる。
⑨	私立高校は、学校での指導状況等を週１回くらいのペースでメール連絡してくれるので、保護者としては安心感につながっている。
⑩	県立高校では、それぞれ魅力ある学びに取り組んでいるが、その情報は中学１・２年生には入ってこない。一方、私立高校はオープンキャンパスに力を入れており、早くから情報が入ってくる。発信力は重要で、県立高校でも早い段階から学校案内パンフレットの配布等の情報発信をした方がいいのではないか。

⑪	県立の普通科高校は発信力が弱い。地域と連携した取組は大切だが、それらの取組が一般には伝わっていない。農業高校等は地域と連携した取組をしているが、普通科高校でも地域との交流をもっと増やしてほしい。
⑫	近年の大学入試では、大半の生徒が推薦選抜で入学すると聞く。高校入試も、推薦選抜と一般選抜で二極化していると感じている。
⑬	日野高校では、日野カフェ等を通じて、積極的に地域イベントに参加いただいている。高校と地域との連携・協働した取組は、ひとづくり・まちづくりの観点で重要と感じている。
⑭	多くの中学生が塾に行っている。塾の指導によって学力的な視点で高校を選択している中学生も多い。高校では、将来の進路や職業等を見出すような教育が大切ではないか。
⑮	中学校時代に不登校を経験した生徒が、能登川高校の昼間定時制に入学して力を発揮できるようになったという話も聞いている。時間帯の設定など、学習の形態が異なる高校の必要性を感じている。
⑯	特別な教育的支援が必要な生徒の高校に入学する割合が上昇している現状に驚いている。これまでのような教員配置では、支援するのは難しいのではないかと感じている。
⑰	県内には外国にルーツを持つ生徒は多く、中には生活習慣や言葉の壁で困っている生徒もいる。これらの生徒に対応した支援体制が充実した高校があると、中学校としては、生徒を送りやすい。
⑱	高校生や中学生等の若い人たちには、地域行事に参加してもらいにくい状況がある。高校の文化祭を、オープンキャンパスのようなＰＲの場も兼ねてはどうか。また、文化祭や部活動等の発表の場に地域施設を利用するのも、魅力ある高校づくりの一つではないか。
⑲	勉強や部活動等のことがあるので、市町側から高校側に連携した取組の提案は難しい。高校側が、地域に協力できることを発信してくれれば、地域連携に取り組み易くなる。
⑳	高校生が地域行事に参加することは、地域への愛着につながる。また、地域の大人と接することは社会勉強にもなる。地域と高校が連携できる材料は多いので、高校側から声かけしてもらいたい。
㉑	高校生にも、地域資源の利活用の検討等に参加してほしい。また、運動部が、幼稚園・小学校等でスポーツ教育に取り組む活動もできればいいのではないか。
㉒	子どもの数が減っていく状況において、高校での教育力を高めていくには、地域の教育資源の活用は大きい。高校生にとって、教職員以外の大人に触れる機会は大切であるが、地域の大人にとっても若い人たちと関わることで元気が生まれ、地域活性につながる。
㉓	高校と地域との連携を進めるには、高校の教職員にも地域のことを学んでもらうことが大切だが、それが教職員の負担にならないような体制作りも必要である。
㉔	八日市南高校は、地域イベントに参加したり、地域の農業者が講師として出前授業に出向いたりしている。人材育成の観点からも、これらの取組は進めていきたい。
㉕	働き手の確保は、様々な産業分野で難しい状況である。地域と高校との連携・協働した取組を進めていき、県立高校の力を借りながらまちづくりを進めていきたい。
㉖	日野高校での地域連携の取組は、地元の小中学生に大きな影響を与えている。小中学校時代のキャリア教育をさらに推進していく必要がある。あわせて、教職員の負担にならないように地域連携コーディネート人材は必要だと思う。地域のまちおこし協力隊とも情報共有しながら取組を進められたらいいのではないか。
㉗	中学生が、各高校の特色を知ったうえで進路選択ができ、高校入学後も充実した高校生活が送れるような魅力ある高校づくりをして進めてほしい。

※発言順不同